

ゴルフ実習に参加した学生による授業評価に関する調査

石井 哲 次

I. 目的

大学体育は、運動やスポーツなどの身体活動を通して、運動の楽しさ、健康や体力の維持増進、健康に関する理論や運動の実践などの健康教育によって、自らの健康を管理する能力を養うことができる科目である。また、様々な運動やスポーツを体験することで、生涯スポーツとして実践するための動機付けの機会となっている。

体育の授業は、バスケットボールやサッカーなど学内の体育施設を使用した授業を行っている。また、学外の施設を利用したゴルフやスキー、ダイビングなどの実習を取り入れている大学が多くある⁽¹⁾。

本学の学外実習は、共通教養系科目のスポーツ文化Ⅲとしてゴルフ、スキー、マリンなどの野外実習が行われている。

スポーツ文化Ⅲは、学内での授業と学外での野外実習によって構成され、学内で学んだ知識や技術などの成果を学外の施設で学びを実践する場を設けている科目である。

ゴルフは、老若男女、年齢を問わず、初心者から上級者まで、体力や技術レベルに応じたプレーをすることができる代表的な生涯スポーツである。また、プレー中は、ルールとマナーを守りながら、同伴者や他の組への気配りが必要なスポーツであり、プレーを通して交流を深めることができ、社会性の育成に有効な身体活動である^{(2)~(5)}。

野外実習は、半期の授業の履修と休暇中の実習参加、実習費を自己負担としていることから、学生にとって有益なものでなければならない。また、大学の授業の目的や活動内容が適切で、実習での成果が見られるものにする必要があると思われる。

授業の効果を上げるためには、実習の実施場所の選定や実習内容などを配慮することが必要であり、より良い授業として実習を行うためには、学生達の授業評価から授業改善に結び付けていくことが必要である^{(6)~(11)}。

そこで本研究は、スポーツ文化Ⅲゴルフ実習に参加した学生に対して学内での授業や夏季休業中の行われた実習の授業内容や指導方法、実習に対する意識を調査し、学生の授業評価から授業改善のための資料を得ることを目的とした。

II. 方法

1. 対象者

本研究の対象は、共通教養系科目スポーツ文化Ⅲゴルフ実習を履修した男子学生9名（平均年齢 20.4 ± 1.5 歳 175.0 ± 5.0 cm, 72.3 ± 7.9 kg）である。

2. 授業および実習内容

スポーツ文化Ⅲゴルフ実習は、前学期に学内での体育実技と夏期休業期間中に学外での実習で構成されている。

前学期の授業は、グラウンドや練習場でのショットやミニホールでのラウンド、ルールやマナーについての講義、実習の関する説明会を行った。前学期の授業内容を表1に示した。

表1. スポーツ文化Ⅲゴルフ実習の授業計画

1. ガイダンス 授業に関する諸注意、雨天時の指示、服装や道具について
2. 握り方、構え、グラウンドでの打ちっ放し、フォーム形成ドリル（足の使い方）
3. 握り方、構え、バックスイングとフォロー、フォーム形成ドリル（胴体の使い方）
4. 構え、トップとフィニッシュ、フォーム形成ドリル（腕の使い方）
5. コントロールスイングⅠ（距離感の調整、ボールの位置、SW）フルスイング
6. コントロールスイングⅡ（フェースのオープンクローズ、ボールの位置、SW）
7. 短いクラブの技術（ボールの位置、ボールの状態、弾道）
8. 長いクラブの技術（ボールの位置、ボールの状態、弾道）
9. 様々なクラブの知識と技術（ボールの位置、ティの高さ）
10. パッティング（距離感、ラインの読み、ショートパット、ロングパット）
11. ミニゲーム（特別ルールとベストボール方式でのラウンド）
12. ミニゲーム（ボールのマーク、OB、ペナルティ）
13. 模擬コースラウンド（マナーとルールの理解と実践）
14. 模擬コースラウンド（コースマネジメントとスコア）
15. ルールとマナー、実習ガイダンス

ゴルフ実習は、2017年8月1日から4日の3泊4日、茨城県常陸大宮市ロックヒルズゴルフクラブにおいて行った。ゴルフ場は、宿泊施設やゴルフ練習場を併設している。

学生が負担した実習費用は、4日間のプレー代、宿泊費（3食付き）、保険など39,705円であった。

実習内容は、表2に示した。

実習の指導者は、授業担当者1名、体育科教員2名の3名であった。

実習中のラウンドは、1組に学生3名に対して指導者1名が同伴し、3組でラウンドを行った。

ラウンドは、午前中に18ホールの1.0ラウンド、午後に9ホールの0.5ラウンドの27ホール1.5ラウンドを行い、午後のラウンド後にゴルフ練習場でショット練習を行った。

表 2. ゴルフ実習の内容

8月1日		8月2日・3日		8月4日	
11時30分	ゴルフ場集合	7時00分	朝食	7時00分	朝食
13時30分	開講式	7時50分	実習開始1.0R	7時50分	実習開始1.0R
14時00分	実習開始0.5R	12時40分	昼食	12時20分	昼食
16時30分	練習場	13時20分	実習開始0.5R	13時40分	閉講式
18時30分	食事	16時30分	練習場	14時00分	解散
19時00分	ミーティング	18時30分	食事		
22時00分	就寝	19時00分	ミーティング		
		22時00分	就寝		

3. 調査

実習内容に関する調査は、事前調査として6月20日から7月11日の生活実態と授業終了時点で調査した。また、実習中として8月1日から4日までの間、ホテルのコンベンションルームおよび自室で記入させ、最終日の閉講式時に回収した。

アンケート調査は、選択式質問紙と自由記述式質問紙であった。

選択式質問紙は、5段階（1：全くそう思わない、2：あまりそう思わない、3：どちらともいえない、4：ややそう思う、5：とてもそう思う）の選択であった。

尚、学生には、調査に当たり事前に調査目的および内容について説明し、調査に協力を得た。

実習に関する調査は、授業終了時点と実習初日が9名、実習終了時点が8名の結果を集計した。

Ⅲ. 結果

1. 事前調査 対象者のゴルフ経験

ゴルフ実習の参加学生は、2名が運動部系の部活に所属していたが、他の7名は無所属であった。

事前調査時の歩数は、7,923歩（±4,101歩）、睡眠時間は7時間17分（±93.5分）であった。

学生のゴルフ経験は、2名がゴルフラウンドの経験あり、7名が授業のみまたはゴルフ練習場での打ちっぱなし練習程度の状況であった。

ゴルフに対するイメージは、高級感、交流の場、紳士のスポーツ、難しい、費用が高い、老若男女でできるなどと回答していた。

前学期の授業の感想は、「元プロの先生から貴重な技術を教えられたよかった」、「基礎技術が身に付いた」、「飽きずに楽しくできた」、「わかりやすい指導で満足できた」、「楽しく受講できた」などと回答していた。

2. 実習中のゴルフプレーの状況

実習初日は、午後2時から実習を開始した。1日目の実習内容は、1番ホールにおいてティーショットからグリーンでのパットまでの一連のプレーについて確認し、2ホール目以降は間隔をあけてラウンドした。

2日と3日目は、午前中に18ホール1.0ラウンド、午後に9ホール0.5ラウンドを行い、その後ゴル

フ練習場で30分間程度のショット練習を行った。4日目は、午前中に18ホール1.0ラウンドを行った。

実習は、午前7時52分から各組ごとにスタートした。

実習のゴルフプレーは、9ホールの0.5ラウンドを2時間20分程度でラウンドすることができ、前組との間隔が開いたり他のプレーヤーの後組に追いつかれたりすることはなかった。なお、前組との間隔が開いたりやプレーが遅れた場合には、学生のプレーを省略し進行を早めた。

ラウンド中のスコアは、各自で記録したが、提出や報告などは行われなかった。

3. ゴルフ実習の履修動機

学生のゴルフ実習の履修動機（複数回答）は、「ゴルフがやりたかった」4件、「趣味を増やすため」3件、「ゴルフに興味があった」3件、「生涯スポーツにつながる」3件、「将来、役に立つため」3件、「単位取得のため」2件、「家族がやっている」1件、「おもしろそうだった」1件であった（表3）。

表3. ゴルフ実習の履修動機（複数回答）

ゴルフがやりたかった	4
趣味を増やすため	3
ゴルフに興味があった	3
生涯スポーツにつながる	3
将来、役に立つため	3
単位取得のため	2
家族がやっている	1
おもしろそうだった	1
友達に勧められた	0
以前からやっていた	0
その他	0

※件数

4. 授業の内容や目標への理解度

学生は、授業終了時点で「シラバスに沿って行われていた」について「とてもそう思う」や「ややそう思う」の「そう思う」が8件、「目的や目標は明確であった」9件であった。しかし、実習初日の時点で「シラバスや実習要項をよく読んできた」で5件あった（表4）。

実習終了時点では、「授業の目的や目標が達成できた」について「とてもそう思う」や「ややそう思う」を合わせた「そう思う」が6件、「自分の目標が達成できた」が「そう思う」が5件、どちらともいえない2、全くそう思わない1件であった。

授業終了時点と実習初日は9名、実習最終日は8名の結果を集計した。

表4. 授業内容や目標の理解度

		思全 わく ない う	思 あ ま り な い う	ど ち と も い え な い	や や そ う 思 う	と と も そ う 思 う
授業終了時 n=9	この授業はシラバスに沿って行われていた			1	3	5
	この授業の目的や目標は明確であった				2	7
実習初日 n=9	シラバスや実習要項をよく読んできた	1	2	1	2	3
	この授業の目的や目標を理解してきた		1		5	3
実習最終日 n=8	この授業の目的や目標をが達成できた		2		3	3
	自分の目標が達成できた	1		2	1	4

※件数

5. 参加学生の実習に対する意識

表5. 参加学生の実習に対する意識と態度

		全く 思わ ない	あ ま り 思 わ な い	ど ち と も い え な い	や や そ う 思 う	と て も そ う 思 う
授業終了時	私はこの授業にきちんと出席した		1		4	4
	私は授業内容をよく理解できた		1			8
	私は積極的にこの授業に参加した			1	3	5
	私はわからないことについて教員に質問した	1			2	6
	私はこの授業に満足している					9
	私はこの授業を履修してよかった				1	8
実習初日	実習参加のために準備をした		1	1	2	5
	実習参加が楽しみであった			2	1	6
	実習前に体調を管理してきた		1	3		5
	実習参加に目的や目標を持ってきた			1	3	5
	実習に知識や技術の向上に期待してきた			2	1	6
	実習前に生活習慣を整えてきた	1	3	1	2	2
	健康や体力に不安があった	2	3	2		2
実習終了時	実習が楽しかった			1	1	6
	実習中の体調を管理ができた			1		7
	集団生活のルールやマナーが守れた				6	2
	実習中は自主的に行動をした			1	3	4
	知識や技術が上達した			3	1	4
	基本的な技術が身についた		1	1	4	2
	応用的な技術が身についた	1	1	2	4	
	疲れた			2	4	5
	レッスンは適切な人数であった				1	7
	指導内容が理解できた			2	1	5
	指導員とのコミュニケーションが取れた				2	6
	良い経験ができた				2	6
	もっと教えて欲しかった			1	3	4
	ゴルフは難しかった				3	5
	授業の練習の成果が出せた	1		1	3	3
	ゴルフに興味がでた				4	4
	また、参加したい			2	3	3

※件数

学生は、授業終了時点で「きちんと出席した」や「積極的に参加した」、「授業内容をよく理解できた」が「そう思う」が8件であった。「授業に満足」や「履修してよかった」が9件であった（表5）。

実習初日は、「実習参加のための準備」や「楽しみであった」が「そう思う」が7件であった。また、「実習参加に目的や目標を持ってきた」8件、「実習に知識や技術の向上に期待してきた」7件であった。

実習の感想として「そう思う」は、「実習前に体調を管理してきた」が5件、「実習前に生活習慣を整えてきた」4件や「健康や体力に不安があった」2件であった。

「実習が楽しかった」、「疲れた」、「また、参加したい」が6件、「ゴルフに興味がでた」8件であった。「実習中の体調を管理ができた」7件、「集団生活のルールやマナーが守れた」8件、「実習中は自主

的に行動をした」7件であった。また、「知識や技術が上達した」5件、「基本的な技術が身についた」6件、「応用的な技術が身についた」4件であった。

実習中の指導体制については、「レッスンは適切な人数であった」8件、「指導内容が理解できた」6件、「指導員とのコミュニケーションが取れた」8件であった。

実習の感想としては、「良い経験ができた」8件、「もっと教えて欲しかった」7件、「ゴルフは難しかった」8件、「授業の練習の成果が出せた」6件であった。

6. 参加学生の授業担当者および指導者に対する指導態度

表 6. 参加学生の授業担当者および指導者に対する指導態度

		全く 思わ ない	あ ま り 思 わ ない	ど ち と も い え な い	や や そ う 思 う	と も も そ う 思 う
授業終了時	教員は十分な準備をしてこの授業に臨んでいた				2	7
	この授業に対する教員の意欲・熱意が感じられた				1	8
実習終了時	ゴルフ場でのレッスン環境は良かった					8
	私は積極的に活動に参加した			1	3	4
	指導者はレベルに応じた指導をしていた				2	6
	指導者は工夫した指導をしていた				2	6
	指導者の意欲や熱意が感じられた				2	6
	指導者は親しみやすい人柄であった				2	6
	指導者は十分な知識と技術を持っていた				2	6
	指導者は安全に配慮した指導をしていた				1	7
	指導者は学生の健康や体力に配慮していた				1	7
	指導員は十分な準備をして指導に臨んでいた				2	6
	指導者は学生の要望に応じていた		1		2	5
	指導者の言動や発言は適切であった				3	5

※件数

授業終了時点で「教員は十分な準備をしてこの授業に臨んでいた」と「この授業に対する教員の意欲・熱意が感じられた」で全員が「そう思う」と回答していた（表6）。

実習終了時点での「ゴルフ場でのレッスン環境は良かった」や「私は積極的に活動に参加した」に対して、全員がそう思うと回答していた。また、指導者の指導方法や資質に対して「そう思う」と回答していた。

7. 授業と実習内容

授業終了時点では、この授業を通して、ゴルフ実習に必要な知識や技術、意欲、今後役に立つ、後輩に履修を勧めるが「そう思う」が多かった（表7）。

実習初日には、事前に「ゴルフのことを調べた」、「ゴルフの情報を調べた」が「そう思う」4件であった。「実習について両親や兄弟に話した」8件、「参加者と連絡を取った」7件、「参加者同士でのコミュニケーションに不安」3件や「実習参加に不安」6件と回答していた。

終了時点では、実習中の活動内容について「そう思う」が、「良い経験や体験ができた」8件や「新しい発見があった」7件、「自然を味わうことができた」が8件、「運動量は十分」8件、「実習内容は適切」7件、「実習中のレッスン内容は十分」6件、「実習内容や形態」7件、「大学の授業としてふさわし

表 7. 授業と実習の内容について

		全く 思わ ない	思 わ な い	あ ま り 思 わ な い	ど ち と も い え な い	や や 思 う そ う	と て も 思 う そ う
授業終了時	この授業を通して、ゴルフ実習に必要な知識や技術が得られた					2	7
	この授業を通して、ゴルフ実習に参加する意欲が高まった				1		8
	この授業を通して、ゴルフ実習に参加する準備ができた		1			2	6
	この授業は、今後役に立つ					1	8
	私は後輩にこの授業を履修することを勧めたい				2	1	6
実習初日	ゴルフのことを調べた			2	2		4
	事前にゴルフの情報を調べた	2	1		2	1	3
	実習について、両親や兄弟に話しをした				1	1	7
	実習参加者と連絡を取り合った			2		2	5
	参加者とコミュニケーションがとれるかが不安であった	2	2	2		3	
実習終了時	ゴルフができるかが不安であった	1	1	1		3	3
	実習中に良い経験や体験ができた					4	4
	運動量は十分であった					1	7
	ゴルフを楽しむための技術が身に付いた				1	2	5
	新しい発見があった				1	2	5
	実習内容は適切であった				1	2	5
	今後役に立つ知識や技術が身に付いた					3	5
	実習中のレッスン内容は十分であった				2	2	4
	実習内容や形態は良かった				1	5	2
	大学の授業としてふさわしい実習であった				1	3	4
	今後も生涯スポーツとして実践していきたい				1	2	5
	実習期間3泊4日は適切であった		1		3		4
	実習費用の約4万円は適切であった		1		1	2	4
	実習の総合評価は良かった				1	1	6
実習終了時	友人に助言や指導ができるようになった	2	1		2	2	1
	自然を味わうことができた					3	5
	ゴルフの危険性を認識した				1	3	4
	ゴルフ場でのルールとマナーを理解できた				1	1	6
	新しい友人ができた	1			1	2	4
	グループ内でコミュニケーションが取れた				2	2	4
	友人や後輩にこの実習を勧めたい				1	4	3
	教員とのコミュニケーションが取れた					2	6

※件数

い」7件であった。また、「ゴルフを楽しむための技術が身に付いた」7件、「今後役に立つ知識や技術が身に付いた」8件、「今後も生涯スポーツとして実践していきたい」7件、「ゴルフの危険性」7件、「ゴルフ場でのルールやマナーを理解できた」7件であった。

指導者と参加者の関係においては、「友人に助言や指導ができるようになった」3件、「新しい友人ができた」6件、「グループ内でのコミュニケーションが取れた」6件、「友人や後輩に実習を勧めたい」7件、「教員ともコミュニケーションが取れた」8件であった。

実習内容として、「実習期間3泊4日は適切であった」4件、「実習費用の約4万円は適切であった」6件、「実習の総合評価」7件であった。

8. 実習環境・施設

表 8. 実習環境・施設

		全く 思わ ない	あ ま り 思 わ ない	ど ち と も い え な い	や や そ う 思 う	と て も そ う 思 う
実習終了時	ゴルフ場は快適であった				1	7
	レッスンのグループ分けは適切であった				2	6
	実習場所のゴルフ場は良かった				2	6
	宿泊施設（ホテルや部屋）は良かった				3	5
	食事（質と量）は良かった		2	1	1	4
	ホテルの生活は快適であった				4	4

※件数

ホテルやゴルフ場の環境は、全ての項目でそう思うが8件であった（表8）。
食事（質と量）については、回答が分散した。

IV. 考察

1. 学生のゴルフ経験

ゴルフ実習に参加した学生は、2名が定期的に運動をしているが、7名があまり運動をしていないようであり、1日の歩数7,923歩±4,101歩と20歳から29歳の8801歩よりは少なかった。また、睡眠時間は平均で7時間17分と日本人男性の平均睡眠時間7時間49分より30分程度短く、参加学生の運動量や睡眠時間が少ないことがわかった⁽¹²⁾⁽¹³⁾。

実習は、午前7時の朝食から始まり午後5時頃までの約10時間の連続した活動、ゴルフプレーの1.5ラウンドで約7時間程度の身体活動の中で徒歩やカートによる約14kmの移動や約15000歩の歩行などと非常に多い運動量であることから、実習参加を希望する学生に対して日頃から運動するように指導する必要がある。さらに、大学での週に1度の授業では、運動量が少ないため、普段から運動や生活習慣を整えるなどの健康管理について指導する必要があると思われる。

実習の事前調査としてゴルフへのイメージは、高級感、交流の場、紳士のスポーツ、難しい、費用が高い、老若男女でできるなどの回答から、学生にとってゴルフは接する機会が少なく敷居が高いスポーツであると思われる。

前学期の授業の感想は、「元プロの先生から貴重な技術を教えられたよかった」、「わかりやすい指導で満足できたなど」と、指導者の指導方法や技術レベル、専門的な知識による授業が行われたことで、学生達は満足したものと思われる。

これらのことから、学生たちが生涯スポーツとしてゴルフを実践していくためには、授業の中でゴルフのルールやマナー、基礎的な技術を学生に教授する必要があると思われる。また、授業を開講する際には、指導者の資質や技術など優れた実技の専門的な知識や技術、有資格者が授業を担当することが望ましいと思われる。

2. 実習中のゴルフプレーの状況

ゴルフは、全てのプレーにおいて自分自身が責任を持つセルフプレーが基本であるため、ルールやマ

ナーを理解し、同伴者と協力してラウンドし、自身のプレーをしながら同伴者や他の組への気使いが必要となるスポーツである。

実習は、プレーのマナーとして「プレーファースト」を意識し、0.5 ラウンドの9ホールを2時間15分で回ることを目標にプレーした。

ゴルフでのプレーファーストは、自身や同伴者のプレーに遅延が出ると後続の組みやゴルフ場全体のプレーに影響するため、プレーヤーは常に意識しなければならない。

実習中では、初めてラウンドする学生が多く学生の技量が十分でないため、各組の指導者は学生に応じたプレーを指示した。

学生は、ティーショットを打ちフェアウェーに残ったボールやベストボールを選択してプレーを続けたり、ボールをラフからフェアウェー上に移動、グリーン上のパットやバンカー内での打数を2打以内などとし、同伴のプレーヤーや前後の組みの進行状況を確認しながらプレーの進行が遅れないように指導した。

実習は、初心者が多くティーショットから上手く飛ばすことやグリーン上で何度もパットをして、イライラした学生や悩み込んでしまった学生がいた。また、思い通りにプレーすることが出来ない苛立ちや不満がみられたが、一日のプレー中で一度でも良いショットを打つことが出来たことで、気分も晴れ各自の目標が達成できたようであった。

ゴルフは、メンタルコントロールが必要なスポーツとも言われるように、セルフプレーの中で課題解決能力や規律性、チームワークなどの社会人基礎力の要素が必要であると思われる。また、一日中一緒にプレーや生活を共にするため同伴プレーヤーとコミュニケーションを取り、助け合いながらプレーをすることが望まれるため、学生にとっていい経験ができたものと思われる。

ゴルフは、社会人基礎力の要素、前に踏み出す力（アクション）、（主体性、働きかけ力、実行力）、考え抜く力（シンキング）（課題発見力、計画力、創造力）、チームで働く力（チームワーク）、（発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律力、ストレスコントロール力）を身に付けるための活動として最適なスポーツ活動であると思われる⁽²⁾⁽¹⁴⁾。

このように、宿泊を伴う実習や集中的にしてゴルフを行うことで学内での授業や実習の成果を確かめる機会として有効であると思われ、今後も学生に対して積極的に履修や参加を進めていきたい。

3. 履修動機

2017年度の履修者は、経験者2名と初心者7名であり、体力やゴルフに関する知識や技術などの能力に差があった。

学生の履修動機は、「ゴルフがやりたかった」や「ゴルフに興味があった」の多く回答があったが、「単位取得のため」が2件であった。このように、学生の履修動機が単位取得よりも、ゴルフに興味があり履修したことは授業の到達目標や授業内容に沿ったものであったことは、大変良かった。

ゴルフは、学生達にとって普段の生活の中で経験することが出来ないスポーツであるが、家族が行っていたり、週末のテレビ中継、世界で日本人選手や女性選手の活躍などが話題となり、スポーツニュースや社会ニュースとして取り上げられるようになり、身近なものになってきた。このように、共通教養系科目の健康科学とスポーツやスポーツ文化の授業をきっかけとして生涯スポーツの実施に結びつけて欲しいものである。

ゴルフは、老若男女問わず行われている人気のスポーツであり、ゴルフ（練習場を含む）890万と野球（キャッチボールを含む）814万人、サッカー（フットサルを含む）677万人よりも多いスポーツである⁽¹⁵⁾⁽¹⁶⁾。

最近のゴルフ場は、プレー代が安くなり自走カートによるセルフプレースタイルが多くなり、仲間同

士で気軽にプレーできるようになった。

大学体育でのゴルフの授業は、一般体育として実施したことがある大学が77%と多いが、実習を実施している大学は53%と少なくなっている。

大学でのゴルフの授業は、体育教員の担当が90%と非常に多く、ゴルフの専門指導者が9%と少なかった。また、ゴルフの授業の問題としては、場所がない・狭い47%、怪我が心配22%、指導者がいない18%などが挙げられている⁽¹⁾。

学内での授業を担当している教員は、元プロで競技の経験がある教員で、専門的知識や技術を有している指導者であったため、指導方法が豊富で適切な指導ができる能力を有していた。このことが、学生たちに、生涯スポーツとしてゴルフに興味を持たせる機会として最適であったと思われる。

今後、ゴルフを生涯スポーツとして活動できるための知識と技術の習得、仲間同士でのセルフプレーが実施するようにルールとマナーを習得できるような授業計画や実習内容を計画していくことが必要であると思われる。また、ゴルフは生涯スポーツへの導入や家族や友人とのコミュニケーションツールとしての有効であると思われる。

学生たちがゴルフをする機会は、授業で体験してもコースでラウンドする機会は少ないために、大学ゴルフ授業研究会（一般社団法人）が大学の正課授業（体育実技）と実習による課外活動（ゴルフコース）を結び付け、学生が気軽にゴルフを実践できるようにしたコースデビュープログラム「Gちゃれ」が企画され、多くの大学や大学生が参加している。

4. 授業の内容や目標への理解度

学生は、スポーツ文化Ⅲの履修の際にシラバスの到達目標や授業内容を確認し、履修したと思われる。スポーツ文化Ⅲは、半期の授業と休業期間に学外実習が行われ、実習費が自己負担であるため、履修に際して慎重であったと思われる。

スポーツ文化Ⅲゴルフ実習の到達目標は、基本的な技術の修得と実践、ゴルフのゲーム特性とルールとマナーの理解、学生同士のコミュニケーション能力の育成、人間関係の構築、ゴルフの醍醐味を体験する、生涯スポーツへの導きなどである。

授業の内容は、ゴルフの基本的な技術を修得しラウンドを体験するためのゴルフの理論と技術を総合的に学び、ゴルフ実習でのコースラウンドの実践の中で本格的にゴルフの真髄を体験し技術・ルール・マナーを習得するなどである。

今回、履修した学生はシラバスを読み授業の目的や目標などを確認していたと思われ、授業や実習に対して期待も大きかったと思われる。

実習終了時点で目的や目標が達成できなかったのは、授業の中で習得したゴルフの基本的な技術と理論、実技が、実習中に実践することが出来ずゴルフの難しさを味わったためであったと思われる。

今後、実習を有意義な活動にするためには、授業の目的や目標、実習内容やスケジュールなどの実習要項を熟読するように指導する必要があると思われる。また、授業の目標を達成し成果を上げるためには、学生たちに授業の目的や内容などをしっかり理解させ、生涯スポーツへと導きゴルフの楽しさや醍醐味を味わうことができる実習を計画することが必要であると思われる。

5. 参加学生の実習に対する意識と態度

実習に対する意識は、授業終了時点で全ての学生が「授業に満足」や「履修してよかった」が「そう思う」と回答していたことから授業に対して満足していた。

実習初日には、実習に対する準備や体調管理が十分にできていなく、実習中の生活習慣や健康や体力に不安を抱いていたようであった。

学生は、3泊4日のゴルフ実習を初めて経験することから体力的にも不安があったと思われる。

実習終了時点では、「実習が楽しかった」や「良い経験ができた」などが高かったのは、初めてゴルフをプレーしたことによって、評価が高かったと思われる。また、「体調の管理」や「集団生活のルールやマナー」、「自主的な行動」が出来たのは、学生自身が積極的に実習に参加したためであると思われる。技術の習得については、基本的や応用的な技術が身についた、授業の練習の成果が出せなかったなどが「どちらとも言えない」や「思わない」との回答が多かった。

実習中のラウンド中は、学生自身がプレーに専念し、その場で練習しながらのプレースタイルではなかったため、低かったと思われる。

実習中の指導体制に対しては、指導人数や指導内容など適正であったと回答していた。

実習の感想は、「楽しかった」や「良い経験ができた」、「また参加したい」などに対してそう思うが多かったことから、学生の期待に対して応えることができたものと思われる。

実習中は、出来るだけ多くのゴルフを経験させるために8時から16時頃までの間に1.5ラウンド行い、その後にゴルフ練習で30分程度の練習を行った。

実習のラウンド中のプレーは、技術の確認や様々な状況に応じたショットへのアドバイスのみであったため、技術があまり上達しなかったものと思われる。実習において、1打1打に時間を取り練習をしながらラウンドを行うことができれば、技術も向上したものと思われる。

実習中の指導は、学生3名に対して指導員1名のパーティーでラウンドし、適切な人数でのラウンドであったため、実習中の指導員とのコミュニケーションが取れたと思われる。

学生の回答より、実習の活動によって「楽しかった」「良い経験ができた」、「難しかった」「興味がでた」など「とてもそう思う」の回答が多かった。このことは、ゴルフのプレースタイルの特性として、同伴者と1日7時間以上一緒に過ごすことで相互の信頼関係や励ましあい、働きかける力や創造力、柔軟性、状況把握力などが養われ、ゴルフ場の行動やプレーを通して社会人として経験を積む良い機会である。今後は、学生自身や仲間同士が集まりセルフプレーでゴルフが行えるように、ゴルフの特性やルール・マナー、エチケットなどの知識や技術の指導だけではなく、社会性を育成する必要があると思われる。

実習中の運動量は、学生にとって連続してゴルフを経験することができないものであり、夏期での実習であることから熱中症の予防や疲労の蓄積を避ける必要がある。

授業では、履修した学生に対して、体調の維持や熱中症の予防やのためにも日頃からの健康管理に務めるように指導することが必要であると思われる。

6. 参加学生の授業担当者および指導者に対する指導態度

学内での授業は、専門的な知識や技術を有した教員が指導を行ったことが、授業評価として好意的に捉えていたと思われる。また、授業では、学生に対して授業担当教員が積極的にコミュニケーションをとり学生の能力に応じた指導やゴルフの専門的な指導法に従った指導を行っていたことが、学生の評価につながったものと思われる。

ゴルフ実習中の指導者は、学生と午前7時から朝食、8時頃からかの午後4時30分頃までのゴルフ活動、午後6時30分の夕食から夜のミーティング終了まで約2時間などと、多くの時間を一緒に過ごすことがからも相互にコミュニケーション能力が必要である。また、指導者は学生の体力や技術レベルに応じた指導、ラウンド中のプレーに対しての指導や助言など、適切な指導が必要である。特に、ゴルフは危険なスポーツであること認識し同伴者や前後の組みへの安全への配慮や危険防止などの安全管理にも注意を払わなければならない。今回の実習では、指導者が3名の学生を担当することで、学生に対して十分に気を配ることができ、安全に対する配慮ができたものと思われる。

これらのことから、ゴルフ実習の授業を担当する教員や指導者は、体育教員としての教育歴があり、ゴルフの経験や学生への指導経験もあり、学生の能力に応じた指導や助言を行うことができる指導者が担当することが望ましいと思われる。また、大学の授業として適切な実習を行い、参加学生にとって有意義な実習を実施するために、実習内容の見直しや指導方法の工夫ができる指導者が望ましいと思われる。

7. 授業と実習内容の内容について

スポーツ文化Ⅲゴルフ実習の授業は、ゴルフの知識や技術の基礎を学び生涯スポーツとして活動していくために必要な知識や技術、態度を養うことを目的としている。

学生は、授業終了時点でゴルフの知識や技術の基礎を習得し、実習に対して期待して実習に向けて準備し、両親や兄弟などと実習について会話し、参加者同士で連絡をとるなど実習に対して期待していたと思われる。しかし、実習開始までの間には、改めてゴルフの情報について調べていなかった。

実習中の活動内容については、初めて本格的なゴルフのラウンドを経験した学生が多いことから、良い経験や体験ができた、新しい発見があった、自然を味わうことができたなどがそう思うと多くが回答していたと思われる。実習内容では、運動量やレッスン形態などの実習内容や大学の授業としてふさわしいとの回答が多かった。

スポーツ文化Ⅲの企画や運営を担当する教員は、授業担当教員や実技指導者との打ち合わせを繰り返し、実習の実施にあたり運営方法や実習内容などを見直し、より良い実習を目指している。

実習では、ゴルフプレーを通して知識の習得や技術の向上を目指し、今後生涯スポーツとして実践していくためのゴルフを楽しむための知識や技術、ルールやマナー、ゴルフの危険性などを教える場である。さらに、ゴルフプレーを通して指導者や学生同士のコミュニケーション能力や社会性の育成にも役立つものと思われる⁽³⁾。

実習計画については、実習の期間や費用に対して回答が分散したが、実習の総合評価は「そう思う」が7件と多く、学生は実習の企画に対して高評価であったと思われる。この結果については、初めて宿泊を伴うゴルフ実習を経験し、1日で1.5ラウンドすることがなかったためであったと思われる、学生が実習内容を理解し安心して実習に参加できるように配慮し、実習内容について十分な説明する必要があると思われる。

ゴルフの楽しみ方は、1日を親しい仲間と一緒に過ごしたり、スコアを競い合い、ドラコンやニアピンなど様々な手段がある。また、1日の中で一打でもナイスショットが出るだけでもゴルフは楽しくなり、生涯スポーツとして実践できるスポーツである。また、様々なイベントや競技会に参加することも目標となる。

これらのことから、参加学生に対して、授業の到達目標や授業内容などのシラバスの内容を理解させ、事前説明会や実習要項などによって実習に参加する意識と態度を明確にし、日常生活や運動など健康管理に注意するように指導する必要がある。

8. 実習環境・施設

実習の企画として、ゴルフ場や宿泊施設については、全ての項目で「そう思う」が8件であった。

今回の実習で利用した施設は、ゴルフ場と練習場、宿泊施設としてホテルが併設され実習の運営が行い易い環境であった。ホテルの部屋はツインルームであったため、しっかり休養が取れたものと思われる。実習中の食事は、バイキング形式の朝食、レストランメニューからの選択の昼食と十分な食事であったと思われる。しかし、夕食はホテルでのコース料理（ご飯、肉や魚の料理、サラダ、スープ）であったため品数が少なかったことが要因であると思われる、夕食の品目や品数について改善する必要がある

と思われる。

実習の実施は、ホテルやゴルフ場の関係者、ゴルフ場の管理担当のキャディーマスター室の協力や配慮を得て実施することができた。

ゴルフ場のコースは、2つのコース36ホールがあり、雄大な自然の中にある高低差が少ない丘陵コースで、フェアウェイも広く、大変良く整備されたコースで、初めてゴルフを体験する学生にとって適したコースであった。

ゴルフ実習の企画は、ゴルフ場と宿泊施設が併設され、初心者が多く参加することから平坦でコース幅が広く、頻繁にコース整備が行われていることも条件である。

実習を行ったロックヒルズゴルフクラブは、実習の実施先として良い環境であり、実習の運営においても運営しやすいゴルフ場である。また実習では、ゴルフ場やキャディーマスター室の協力が必要となり、コースレイアウトや危険箇所などを十分に把握するために、事前調査やコース管理者との打ち合わせなどが必要である。

これらのことから、大学の授業としてふさわしく有意義な実習を実施するためには、実習地の選択やゴルフ場関係者と実習内容の打ち合わせ、プレー代や宿泊費などの実習費の交渉など綿密に打合せする必要がある。

まとめ

本研究は、スポーツ文化Ⅲゴルフ実習の開講にあたり実習に参加した学生の授業内容や授業終了時、実習開始時や終了時の学生の意識を調査し、学生の授業評価から授業改善のための資料を得ることを目的とした。その結果、今後の授業や実習内容の企画、運営方法など改善点が明らかとなった。

スポーツ文化Ⅲゴルフ実習は、学内の授業と学外の実習を通して、ゴルフの知識や技術の基礎を学び生涯スポーツとして活動していくために必要な知識や技術、態度を養うことを目的として開講されている科目であることを十分に履修学生に理解させる必要がある。また、授業の目的は、セルフプレーができるようになるための知識や技術の習得であり、実習を通して実践することであった。

授業では、専門的な知識や技術を持った教員が授業を担当したことが、学生にとってゴルフの基本的な知識や技術を習得できたものと思われる。また、実習で指導を担当した指導者は、保健体育の教員であり、ゴルフの経験や指導も豊かであったことから、学生の評価が高かったと思われる。

ゴルフ実習は、学内の授業で学んだゴルフの知識や基本的な技術やルールやマナーを十分に理解することは難しく、ラウンドや練習を体験することで効果的にゴルフを習得することができると思われ、授業の成果の実践の場としてゴルフ実習を行うことの意義は大きいと思われる。

実習中の活動内容は、ゴルフのラウンドを経験した学生が少なかったことから、実習は良い経験や体験ができた、新しい発見があったと思われる。また、実習内容では、運動量やレッスン形態などの実習内容や大学の授業としてふさわしいとの回答が多かった。

学生は、授業で初めてゴルフを経験する学生から数回のラウンド経験のある学生まで能力に幅あるため、実習の企画や指導者の能力、実習に工夫が必要であると思われる。

ゴルフは、ゴルフ場に来場する際の服装や履物、クラブハウス内やレストラン、プレー中の服装などにドレスコードやエチケットがあり、社会人として相応しい態度や行動、社会性などを身につける場として有効であると思われる。

ゴルフの楽しみ方は、仲間と一緒に1日を過ごしスコアを競い合い、ドラコンやニアピンなど様々な手段がある。また、1日の中で一打でもナイスショットが出るだけでもゴルフは楽しくなり、生涯スポーツとして実践できるスポーツである。

以上のことから、実習の計画にあたり実習内容などの企画や運営については、履修者人数や技術レベルなどを考慮した授業運営、ゴルフ場やホテルの実習地の選択などの実習環境の整備に配慮する必要があると思われる。特に、参加学生の運動能力や体力レベル、ゴルフ経験などに差があることから、指導者はゴルフの技術の向上や指導方法、コミュニケーション能力などを習得する必要があると思われる。

参考文献

- (1) 三幣晴三, 光永吉輝, 竹田幸夫 (2010-03) 日本における大学ゴルフ授業の実施状況に関する調査研究 駒澤大学総合教育研究部紀要 駒澤大学 4, 445-464
- (2) 八田直紀 (2014), 宿泊を伴うゴルフ実習における心理社会的効用——大学生を対象とした量的および質データを用いた量的および質データを用いた検討——2014 度 VMStudio & TMStudio 学生研究奨励賞
- (3) 八田直紀, 清水安夫, 大後栄治 (2014) スポーツ活動がライフスキルの獲得に与える影響性——大学生版ライフスキル尺度の開発による検討——。体育研究 47: 14-21
- (4) 島本好平・石井源信 (2007) 体育の授業におけるスポーツ経験が大学生のライフスキルに与える影響。スポーツ心理学研究 34: 1-11
- (5) 島本好平・石井源信 (2009) 体育授業におけるスポーツ経験がライフスキルの獲得に与える影響——運動部所属の有無からの検討——。スポーツ心理学研究 36: 127-136
- (6) 伊藤文雄 (2001-03) ゴルフ授業に対する学生の評価 スポーツ科学・健康科学研究 4, 1-6
- (7) 伊藤文雄 (1998-03-20) ゴルフ授業の実態調査 スポーツ科学・健康科学研究 関西学院大学 1, 19-24
- (8) 石原, 端子 (2017-03-24) ゴルフ授業に関する研究動向と今後の展望沖縄大学人文学部紀要 (19): 45-53
- (9) 大澤啓蔵 (1991) 大学ゴルフ授業履修者の実態調査——ゴルフ経験, 履修動機, 関心度, 授業の感想——。亜細亜大学教養部紀要。43: 262-279
- (10) 木村博人, 福島邦男, 大橋信行, 川和田毅, 坂入明, 森尻強, 梅谷千代子 (2002) 学生の授業評価からみた本学スキー実習の授業改善への取り組み 東京家政大学研究紀要 第 42 集 (1), p. 31-40
- (11) 中村充・伊藤政男・東根明人 (2002) スポーツ実技実習の授業評価および指導に関する研究——J 大学スキー実習を対象として—— 順天堂大学スポーツ健康科学研究第 6 号, 125-136
- (12) 平成 27 年国民健康・栄養調査結果の概要 厚生労働省 平成 28 年 11 月 14 日
- (13) 平成 23 年社会生活基本調査 平成 24 年 9 月 26 日 総務省
- (14) 社会人基礎力 (2006) 経済産業省
- (15) 平成 28 年社会生活基本調査——生活行動に関する結果——結果の概要
- (16) 平成 28 年社会生活基本調査 (平成 29 年 7 月 14 日) 第 14—1 表 男女, ふだんの健康状態, 頻度, 年齢, スポーツの種類別行動者数 (10 歳以上)——全国総務省統計局

Survey on class evaluation by student's who participated in golf practice

ISHII Tetsuji

Abstract

The purpose of this survey was to investigate the awareness of students participating in golf practice towards classes and to obtain materials for improving class from student's class evaluation.

As a result, improvement points such as future classes and the planning and operation method of the contents of practical training were clarified.

This class aims to develop the ability to practice golf as lifelong sports by participating in practical training.

In the class, students' evaluation was led by teachers and instructors with expert knowledge, skills, ability, in charge of practical training

Golf practice is thought to be necessary for practical training considering the content of practical training and management method because there are many students who play golf for the first time.

Golf has manners and etiquette besides rules, it seems to be effective as a place where you can acquire appropriate attitude, behavior, social nature etc as a society person.

In golf practice, it seems necessary to consider class management according to the number of participants and the student's ability, practical area and facilities etc.

Particularly, it seems that the ability of the leader is necessary because there is a difference in the athletic ability, physical fitness level, golf experience, etc. of the participating students.

Keyword; class evaluation, student's ability, instructor ability, life-long sports, practice planning